奄美の風だより

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

ＮＯ．１８
（秋号： ５）
２００４．１０．１
ＡＮＣ; News Letter

「ハシカンボク」　湯湾岳への林道H16年9月

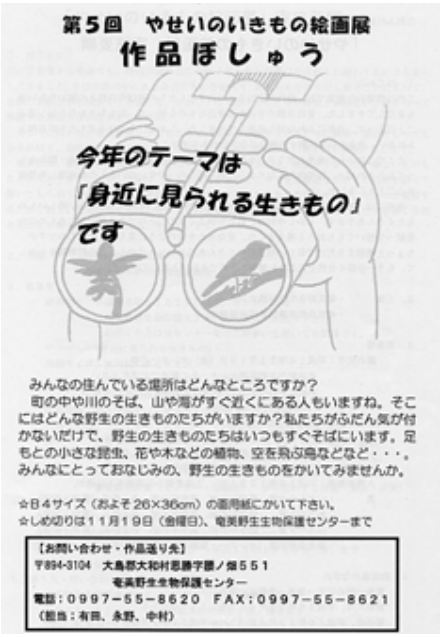
猛暑続きの上に相次ぐ大型台風の接近に悩まされた夏が過ぎ、ようやく秋の気配が漂ってきましたが、涼しさを感じるのは朝夕のみで日中はまだ暑い日が続いています。道路を通りながら折れた枝や葉っぱの落とされた木を見ていると、改めて強い台風だったことを思い知らされます。また、風の影響を特に強く受けた場所では、落葉した木々が新芽に覆われていたりして、いつもの秋の景色とは少し違った感じに写ります。一瞬春がやって来たの？と勘違いしてしまいそうな光景です。そんな中、林道を通ってみますと秋を彩る草花たちを見つけました。道脇の土手に、小さくてかわいらしい薄紅色の「ハシカンボク」の花が咲いていました。花を見ると違いがはっきりわかるのですが、葉っぱだけの時は梅雨の頃に咲く紫色のノボタンと間違えてしまいそうな草花です。他には花の形がパイプに似ていることから名づけられた、紅紫色のナンバンギセルも咲いていました。 時折、暑い日があるとはいえ奄美も確かに秋の季節へと移っているようです。

お知らせ

第５回「やせいの生き物絵画展」の作品募集について

奄美の自然や野生生物に関心をもってもらおうと始めた「やせいの生き物絵画展」も、今年で５回目となりました。今年も奄美野生生物保護センターと協議会の共催で開催いたします。

つきましては、下記の要項で作品を募集いたしますので、ご応募いただけますようお知らせいたします。



【募集内容】

締め切り：平成１６年１１月１９日（金）必着

テ　ー　マ　：「身近に見られる生きもの」

用紙サイズ：画洋紙　Ｂ４サイズ

パステル、水彩絵の具、油絵等

種類は問いません。

応募資格：小・中学生

（小学校３年生までを低学年とする。）

入選者発表：平成１６年１２月上旬予定

（本人へ直接通知します。）

【　賞　】

いきもの大賞：低学年の部１名、高学年の部１名

あざやか賞：低学年の部２名、高学年の部２名

ユニーク賞：低学年の部２名、高学年の部２名

審査員特別賞：学年を問わず２名

＊応募者には参加賞を差し上げします。

【表彰式】

平成１６年１２月４日（土）午前１１：００から

※以上、入選者には賞状と副賞を贈呈します。

応募作品は展示終了後郵送にてお返しします。

【絵画展開催予定】平成１６年１２月４日（土）～平成１７年１月３０日（日）

【送り先】

〒８９４－３１０４

大島郡大和村思勝字腰ノ畑５５１番地

奄美野生物保護センター・奄美自然体験推進協議会宛

協議会活動報告　7月

クラフト教室：「紙飛行機を飛ばそう」
場　所：奄美野生生物保護センター（展示室）
日　時：７月２３日（金）１３：００～１７：００

今年の夏のふれあい行事は、クラフト教室２回，自然観察会２回を企画しました。

第一回目は夏休み早々の７月２３日にクラフト教室「紙飛行機を飛ばそう」をセンターの展示室で行いました。

手投げ式・ゴム飛ばし式の２種類を牛乳パックを利用して作りました。まず手投げ式紙飛行機から次の順序で作っていきました。

①型紙の下に牛乳パックを置いて、ものさしや竹串で型を写します。②カッターを使って型を切り取ります。③切り取った部品を接着剤で組み立てると完成です。２個目はゴムの力を利用して空高く飛ばす「ゴム飛ばし式紙飛行機」です。一個目と同じように、牛乳パックに写した型を切り取って貼り付けます。手投げ式と違う所は胴体を２枚貼り付けることと、ゴム飛ばし器を作るところです。設計図を見ながら作業を進めていましたが、せっかく付けた接着剤が外れて付け直す子供さんもいました。

２個の作品が完成するとみんなでセンター前の広場へ出て飛ばしてみました。あまり飛ばずにすぐに落ちてしまう作品もありましたが、高く飛んだ紙飛行機を見て、「わぁー　飛んだ！すごい！」とみんな歓声をあげていました。

「初めて紙飛行機を作り楽しかった。子供達も一生懸命でした。」と感想を話していました。

牛乳パックを利用しての紙飛行機作りは楽しかったようです。

クラフト教室の様子

自然観察会「マングローブどろんこ探検隊」

場　所：住用村のマングローブ林内
日　時：７月２９日（木）９：３０～１２：３０
講　師：森田豊範先生

観察会の様子

７月２９日は住用村のマングローブ林で観察会「マングローブどろんこ探検隊」を干潮の時間に合わせて午前中に行いました。

講師の森田先生の解説を聞いてから林内へ入って行きました。住用村のマングローブは北限で面積は71haあるそうです。林内は木が生い茂り強い日差しはさえぎられましたが、足元が泥状のため全員裸足になっての散策でした。飛び跳ねるミナミトビハゼを追いかけている子供たちの洋服にも泥が跳ねて、まさに泥んこ探検隊でした。

林内で咲いていたオヒルギとメヒルギについて森田先生から、「雄」と「雌」ではなく違う種類の木だということや、葉っぱの違いについて説明を受けると子供たちは両方の葉っぱを見比べていました。また、オヒルギの膝根を見ることも出来ました。

しばらく歩いて川を渡り干潟へ着くと、片方のつめだけが大きいオキナワハクセンシオマネキがたくさん土の上へ出ていました。みんなが近づくとさっと穴へ入って行きました。しばらくして出てきたのですが、近くで観察しようと近づくとまたすぐに穴へ入ってしまうといった行動を繰り返し、シオマネキと知恵比べといった感じでした。他にはヒメシオマネキや前へ歩くミナミコメツキガニの他にオキナワアナジャコの大きな巣穴も見つけました。

「テレビでしか見たことのない所を歩けて楽しかったです」「マングローブの生物、植物のことよくわかりました」といった感想を聞かせてくれました。

マングローブ林内は国定公園特別地域のために普段は中へ入ることは出来ませんが、今回は前もって許可を得ていたので散策することができました。

子供達はなかなかできない貴重な体験ができて満足そうでした。

自然観察会：「夏の夜のホタル観察会」

場　所：奄美自然観察の森（龍郷町）
日　時：８月７日（土）１８：３０～２０：３０
講　師：作田裕恒先生

８月の観察会は奄美自然観察の森で「夏の夜のホタル観察会」を行いました。

一昨年の観察会が好評でしたので、少しでも多くの方に楽しんでもらおうと企画しました。

管理棟内で作田先生の解説を聞いてから始めました。奄美自然観察の森で主に観察できるホタルはキイロスジボタルという種類で、ホタルを見ることができるのは19:45～20:30の間で夏の間約50日間ぐらいだそうです。ホタルは闇夜で相手を探すために光で交信します。雄は飛びながら発光しますが、雌は草木などの葉上や地面で発光し飛回ることはありません。

奄美のホタルは陸生で幼虫の時は陸上で生活していて陸貝を食べて大きくなります。そこで今回は観察会の前にホタルの幼虫が食べる貝を探してもらおうと、少し早めの集合となりました。薄暗くなった林内の入り口付近で貝を探すのですが、最初はなかなか見つけることができませんでした。しばらくして倒木の下や落ち葉の下から、キセルガイやカタツムリの仲間で殻に細かい毛のあるコケハダシワクチマイマイを何個か見つけることができました。

そしてあたりが暗くなり観察会が始まりました。作田先生を先頭に電燈で足元を照らしながら林内へと進んで行きます。途中で何度か立ち止まりホタルの乱舞を楽しみました。「わぁーきれい、初めて見た」といった声や地面で光っているホタルを手にのせて「小さい！」と驚いていました。しばらく歩いて行くと、池の縁でじっーとしているオットンガエルに出会いました。また、展望台では夏の星座をたくさん観察することもできました。参加者からは「幼虫が食べる貝のことがわかり勉強になりました」「子供にはいい体験になり、これを機に自然に関心をもってもらえたらと思う」といった感想が寄せられました。

観察会の様子

クラフト教室：「ソテツのおもちゃを作ろう」

場　所：奄美野生生物保護センター（展示室）

日　時：８月１８日（水）１３：３０～１６：３０

クラフト教室２回目は「ソテツのおもちゃを作ろう」をセンターの展示室で行いました。

昔から奄美ではソテツの実では味噌（ナリ味噌）を、幹から取れるでん粉をお粥にと食材として利用してきました。

今回のクラフト教室ではソテツの実を使っていろいろなおもちゃを作ってみようと企画しました。

まず、実をむいた種子にアクリル絵の具を使って動物や花などの絵を描いていきます。描き終えたものにはニスを塗って乾かします。そしてドリルで穴をあけて金具を取り付けるとキーホルダーの完成です。

キーホルダーは全員が作りましたが、２個目からはそれぞれのオリジナルの作品を作っていきました。実を何個か使って竹串に紐でつるした「やじろべえ」や、妻楊枝や貝などを接着剤で着けて作った「鳥、魚、カニ」のおもちゃなど、手を休めることなく次々と完成させていました。穴をあけた実に紐を通してアクセサリーのように首からさげている子供さんもいました。

身近で目にするソテツですが、葉っぱはわかっていても実を包んでいる皮の色が赤い色をしていることを知らない子供さんもいました。

参加者からは「いっぱい作品が作れて嬉しかった」「ソテツの実を使っていろんな作品が作れることが分かり良よかった」と言った感想が聞かれました。また、「子供より私の方が夢中になりました」と言ったお母さんの感想もありました。

身近で手に入る植物でおもしろい作品ができることが分かってもらえたクラフト教室だったようです。ソテツの実は花の咲く５月頃に受粉しておくと秋にたくさん収穫できます。

クラフト教室の様子

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

『秋の自然日記；夏の寝場所を考える』

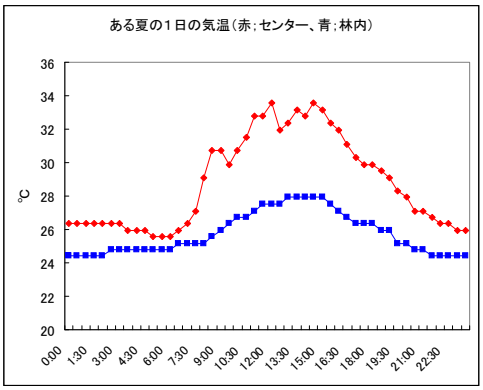
夏の暑い盛りも過ぎ、山々ではオオシマゼミの不思議な声が目立つようになりました。今年の夏は『暑いですね』よりも『また台風ですね』という挨拶をよく聞いた気がします。前回の自然日記（vol.17）でも台風と生き物のことに触れ、今年が台風の当たり年かもしれないと書きましたが、今年も9月中旬の時点で4,6,16,18号と４つの台風がすでに奄美に接近・上陸しています。風速30mを超える強風の中、生きものたちは森の中でジッと台風が過ぎゆくのを待っていることでしょう。

夏は夜の生き物観察が面白い季節です。夜に車でゆっくり走っていると、様々な生きものが出てきます。面白いことに、その人が何を見たいかによって、視線の方向やライトの使い方が異なります。例えばカエルを探す人は、視線は近くの路面でライトも下向き、逆に鳥を探す人は視線もライトも上向きです。

上を向いている人は、夏は特に多くの鳥に出会うことができます。まずは巣立ち直後のリュウキュウコノハズクの若鳥です。若鳥は数羽が同じ枝にいることが多く、またあまり動かないためゆっくりと観察できます（写真右）。親鳥が昆虫などを与えるところも見られることもあります。

また、夏は眠っている鳥もよく観察されます。ルリカケスをはじめズアカアオバトやオオトラツグミ、夏鳥のリュウキュウアカショウビンなどなど。眠り場所は細い木の枝や電線をよく利用しますが、いずれも林の一番外側（林縁部）にいるのでとても目立ちます。林の奥で眠る方が外敵も少なくて安全そうなのですが、どうしてでしょう？

調査で林内の気温や湿度を測定しているのですが、森の中はとても安定した環境です。



例えば夏は平地に比べて気温は低いのですが、気温の変化は小さく、夜になってもあまり涼しくなりません（左グラフ　赤；センター、青；林内）。また湿度は一日中80％以上で高いままです。生い茂る木々が外からの風をシャットアウトしてしまい、空気がこもってしまうのです。ずっと林の中にいる鳥にとって夜はあまり涼しくないようです。林の外側なら風も入ってくるし、林内に比べれば涼しいでしょう。鳥も私たちと同じように、涼を求めているのかもしれません。

風の強い日や満月の夜は生き物が出なくて、蒸し暑い夜はハブがよく出るなど、経験や感覚で生き物の出現が分かる人もいます。今夜も新たな出会いを求めて山に入る人がいることでしょう。しかし、交通事故に遭う生き物は後を絶ちません。生き物の領域に私たちがお邪魔するという気持ちを忘れず、安全運転でお願いします。（センター　中村）

情報マップ　地図

秋にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥：山渓フィールドブックス

「セイタカシギ」　チドリ目　ｼｷﾞ科　　希少種

名前の通り、細くて赤い足が非常に長く、スマートなシギである。くちばしは真っすぐで細くて長い。雄の夏羽では、頭上から首の後ろにかけて黒く、体の上面が緑色光沢のある黒で、顔半分下から下面にかけては全て白い。冬羽では、頭部の黒色部が淡くなる。雄は頭部が白色かわずかに灰色斑をもち、背や翼にかっ色味がある。幼鳥は背や翼が雌よりかっ色味をおび、足の色も淡い。全国の水田や干潟などに旅鳥として渡来するが、繁殖例もある。奄美へは数少ない旅鳥として春秋の渡りの時期に渡来し,越冬したこともある。

鳴 き 声：ピューイッ、ピューイッ、ピュツ、ピュツなど

生息時期：９月～１２月～５月

［ナンバンギセル］　分布：日本全土

全体の形がマドロスパイプに似ているので、南蛮から渡来した煙管と考えてこの名がある。頭を垂れて物思いにふけっているような姿にも見えるので、古くはオモイグサの名で呼ばれた。ススキ、チガヤ、ショウガ、サトウキビ、などの根に寄生する。葉は退化して植物体に葉緑素は全くない、100ﾊﾟｰｾﾝﾄ寄生依存型の植物である。そのため数十万の種子を生産する。種子は黄色で粉のように小さい。熱帯では一年中咲いている。

花期：８月～９月

後　　記

夏に比べて日暮れの時間が日ごとに早くなっているのを感じます。
秋は学校の行事や集落の豊年祭り等でお忙しことと思います。
野道を散策された時などに生き物を目撃されたら情報をお寄せください。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

□ 〒８９４－３１９２
鹿児島県大島郡大和村大和浜１００
大和村役場　企画財政課
ＴＥＬ：０９９７－５７－２１１１
□ （連絡・書類等送付先）
〒８９４－３１０４
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑５５１
奄美野生生物保護センター内
ＴＥＬ：０９９７－５５－８６２０
ＦＡＸ：０９９７－５５－８６２１